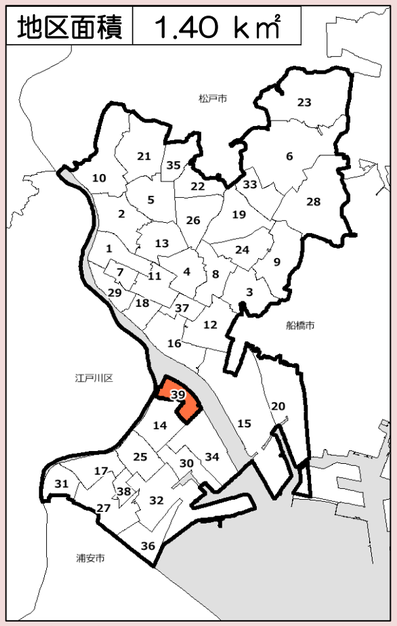
39 妙典小学校区

（1）位置

地区面積	1.40 k㎡



（2）地区概況

◆位置

妙典小学校区は、市の中央よりやや南部に位置し、西側は旧江戸川、東側は江戸川に面しています。

◆地形・土地利用

地形は、砂州・砂丘及び氾濫平野で構成されています。
地区内は第一種中高層住居専用地域等の住宅地となっており、マンション等が多く建ち並んでいます。また、東京メトロ東西線南側は商業地域や近隣商業地域となっており、大型ショッピングセンターのイオン等の商業施設が立地しています。

◆都市基盤

地区内の北側及び南側の一部は、土地区画整理事業により整備されています。地区の北西から南東にかけて県道6号線が通っています。江戸川を渡る橋として行徳橋、新行徳橋があります。
また、地区内には市川市コミュニティバスが通っています。

（3）人口・建物概況

◆人口

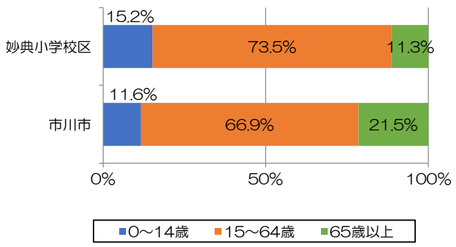
年齢別割合

	妙典小学校区	市川市	割合※
人口総数	11,820人	492,564人	2.4%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	12,630人

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口よりやや少ないです。市全体と比較すると15～64歳の割合が高く、現役世代が多い地区となっています。

◆建物

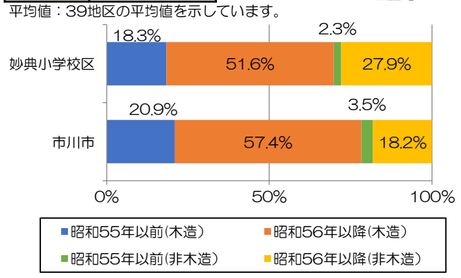
構造別割合

	妙典小学校区	市川市	割合※
建物総数	1,538 棟	107,267 棟	1.4%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値	2,750棟

平均値：39地区の平均値を示しています。

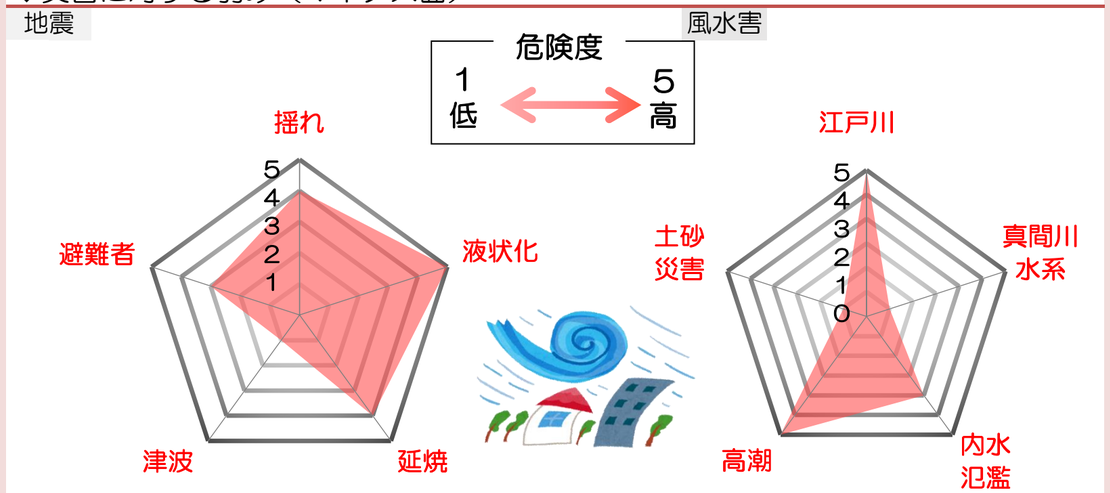


地区の建物は平均より少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、非木造建物が多い地区となっています。

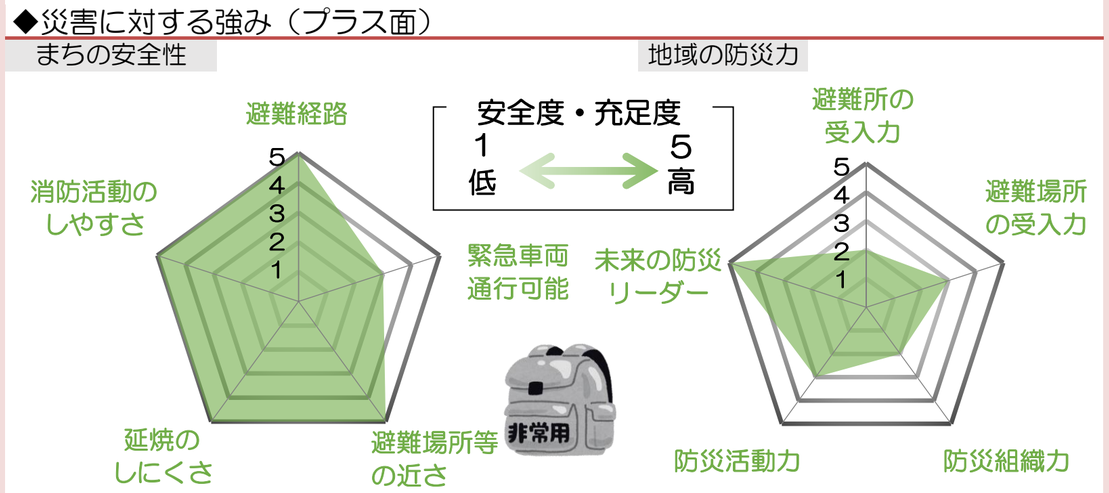
（4）災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

妙典小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、揺れ、液状化、延焼による危険性が高い傾向にあります。風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高く、高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。
一方で、まちの安全性については、避難経路、避難場所等の近さ、延焼のしにくさ、消防活動のしやすさは高い傾向にあります。また、地域の防災力については、未来の防災リーダーは高い傾向にあるものの、避難所の受入力、防災組織力は低い傾向にあります。

（5）防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
妙典小学校	－		

◆避難場所

名称
妙典小学校
江戸川河川敷緑地
イオン市川妙典店駐車場
新宿前公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	なし		医療救護所	なし
			関連施設	行徳警察署
				妙典駅前交番

（6）被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

想定項目		妙典小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	4.6%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	13.7%	11.8%
	焼失棟数の割合	3.2%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	0.2%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.2%	0.4%
	避難者の割合	16.3%	20.0%

◆風水害（被害を受ける割合）

想定項目		妙典小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	96.2%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	46.5%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	98.8%	64.9%

市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合がやや高く、非木造建物が多いことから、焼失の建物被害はやや少ない傾向となっています。また、人的被害については、死者数は市全体より少なく、負傷者や避難者もやや少なくなっています。
一方で、風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による影響が大きく、高潮の浸水による影響も受け、市全体と比較して江戸川、高潮の浸水棟数は多くなっています。

（7）防災上の課題

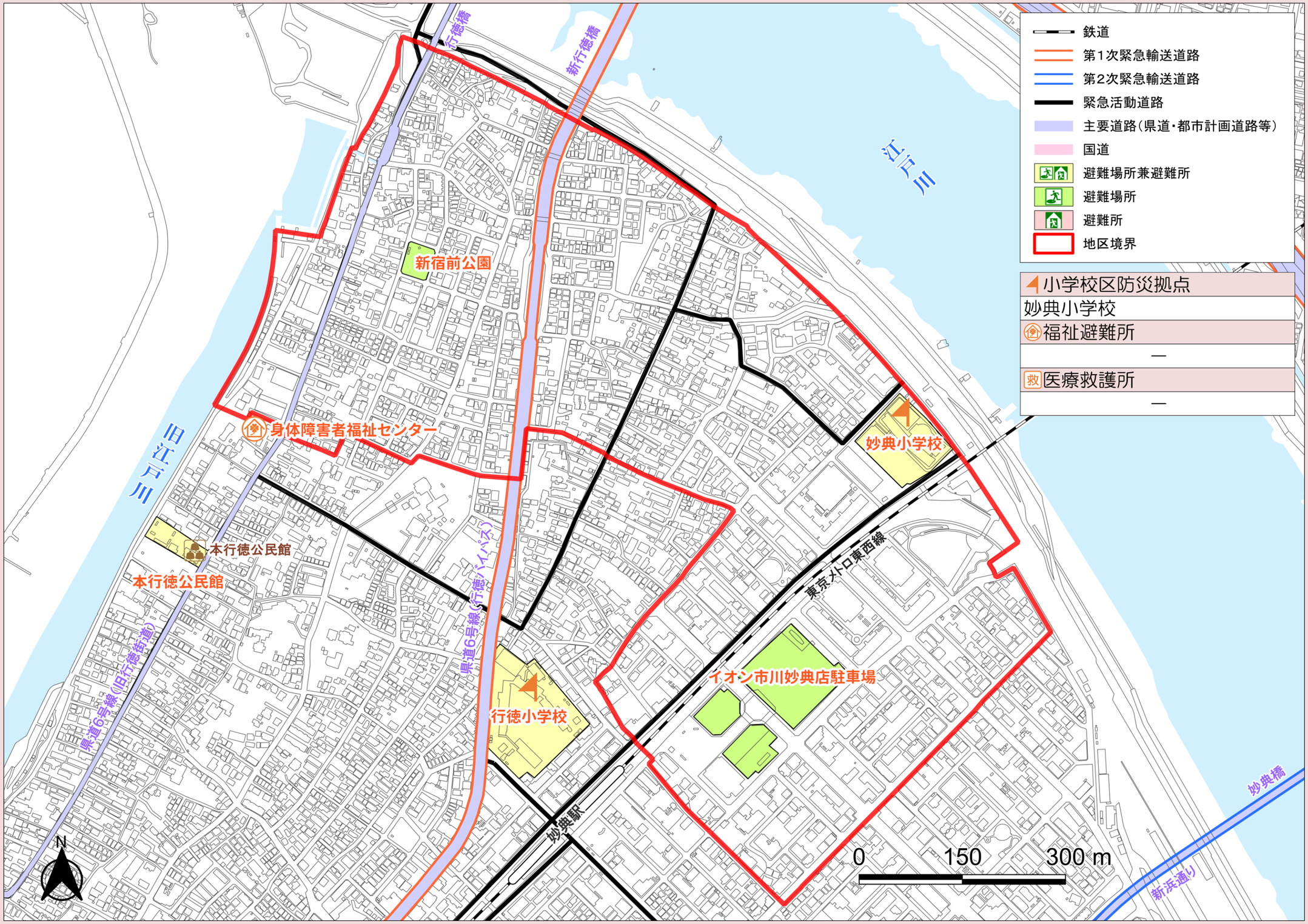
項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、液状化の危険性が非常に高く、耐震対策やライフライン途絶に備えた備蓄対策も必要です。
風水害	北東側に江戸川が流れていることから、河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮の浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。
地域の防災力	地区には、避難所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所が混雑する可能性があり、在宅避難ができるよう自宅の備えを整えることが重要です。また、防災組織力が低いことから、防災組織結成の促進や既存組織での訓練などの取り組みが重要です。

（8）防災対策の方向性

項目	取組の方向性
地域の取組	狭い道路が多く、緊急車両が通行可能な道路の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用し、ブロック塀等の倒壊を防ぐことが効果的です。 防災組織の結成が少ないことから、地域内で助け合うことができるよう、防災に関する組織結成を行っていく必要があります。 地区内の避難場所の受入力が低いため、近隣地区も含め避難場所を確認し、あらかじめ地区の中で避難する場所の情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置を進めるとともに、家具の固定など自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、同じく「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

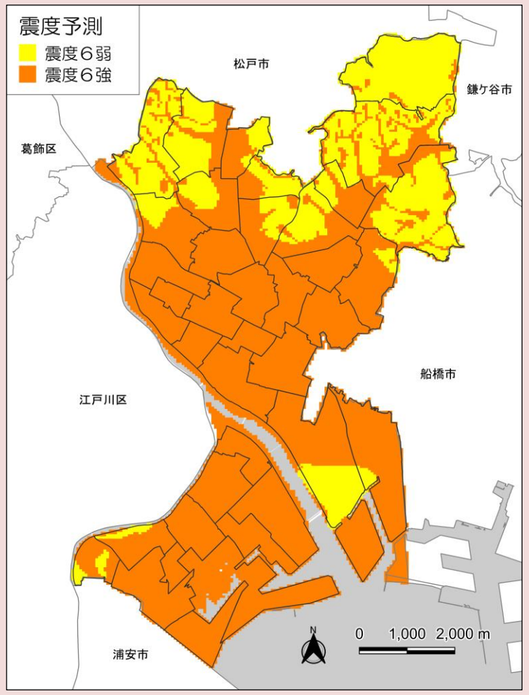
（9）防災マップ

市川市防災カルテ ＜ 妙典小学校区 ＞



（１０）基礎資料

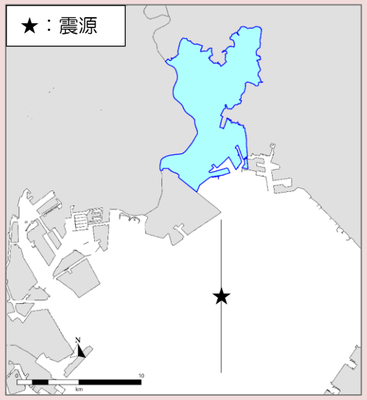
①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾直下を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の南部を中心に広く震度６強と予測されています。

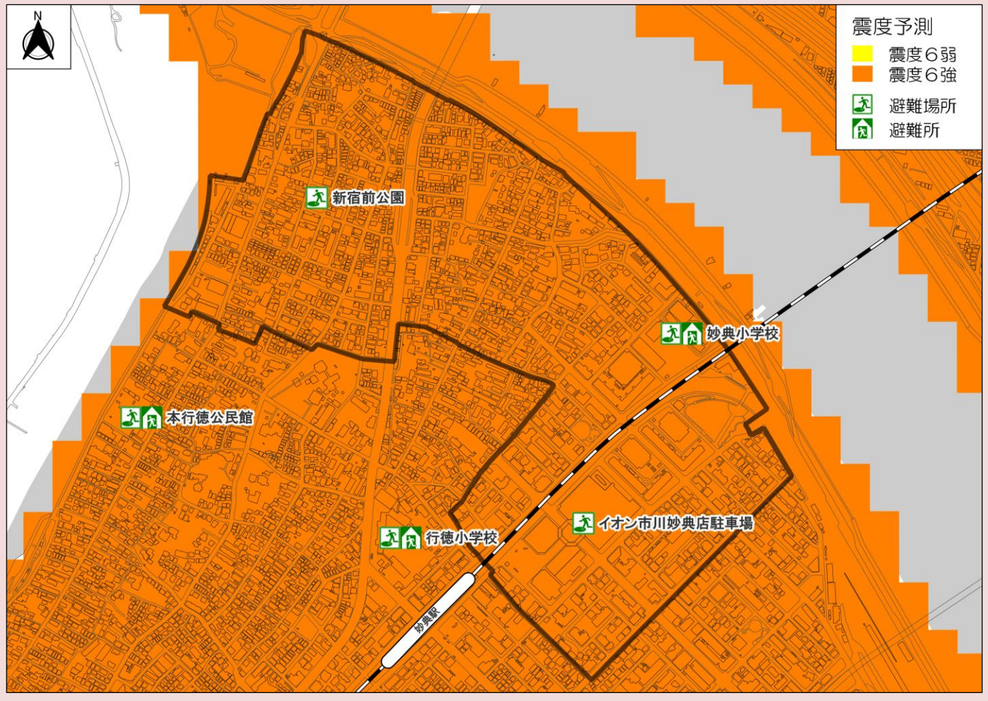
想定地震	東京湾直下地震
マグニチュード	7.3 （震源深さ：48km程度）

▼震源

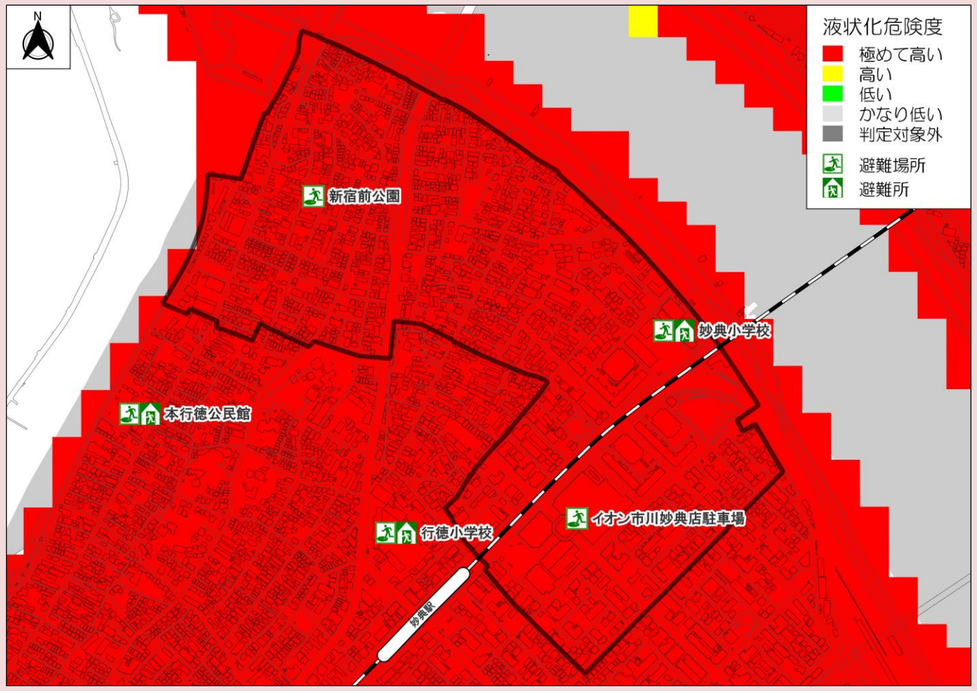


※本結果は市川市地震被害想定結果（令和５年度）に基づいています。

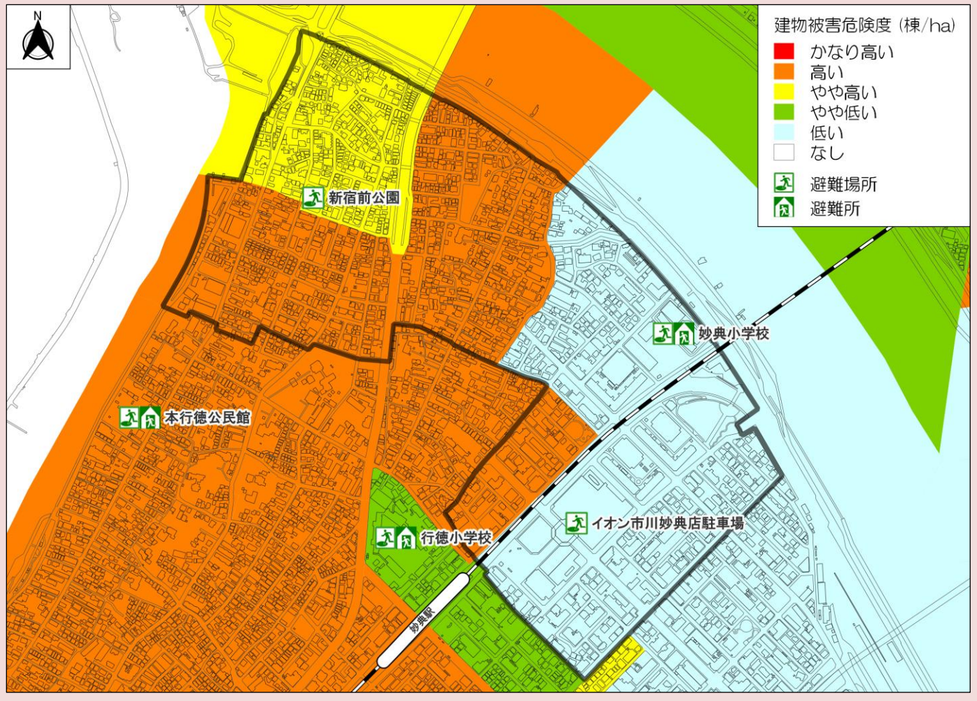
②震度分布図



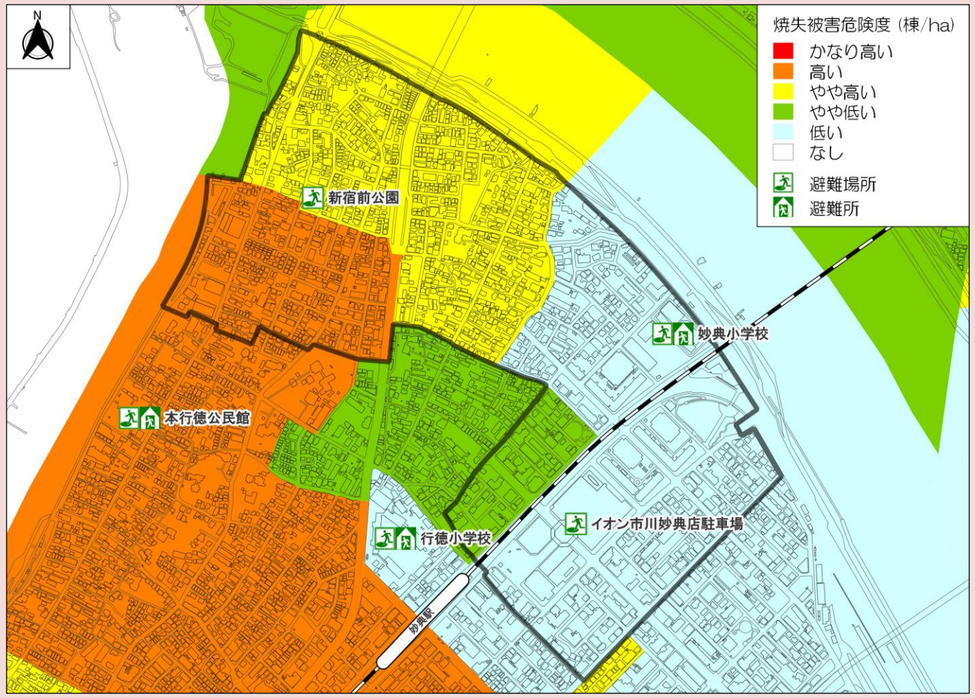
③液状化危険度



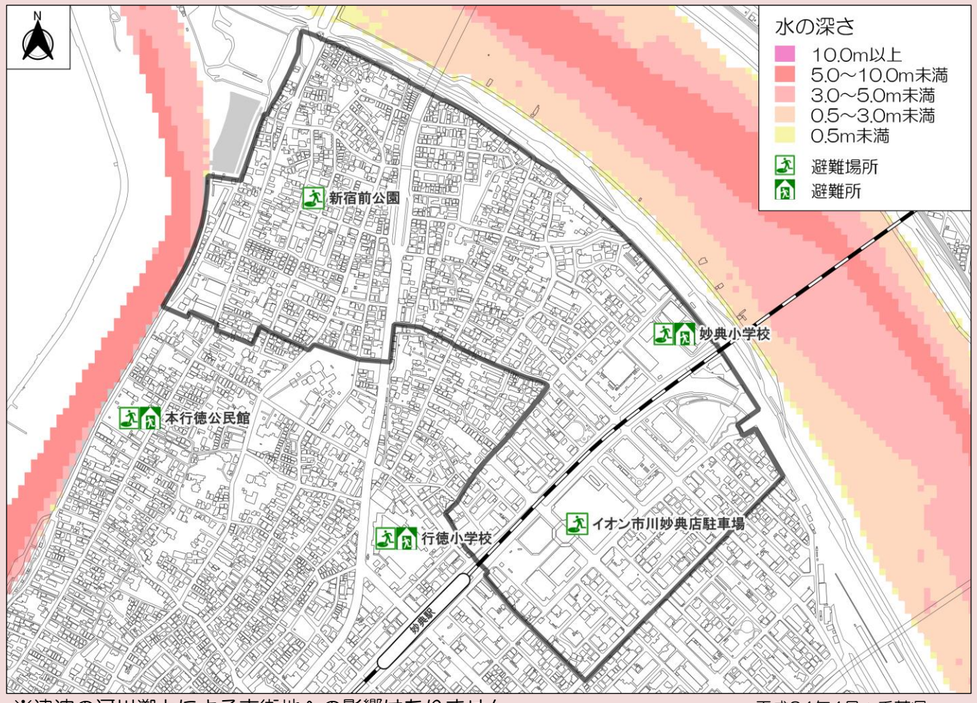
④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

⑦浸水想定の概要

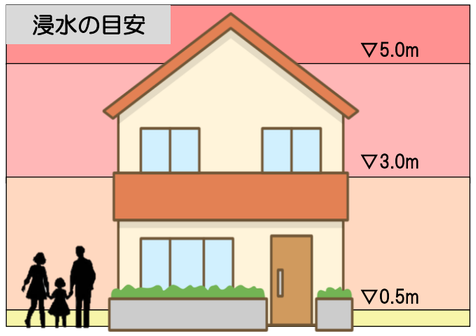
江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

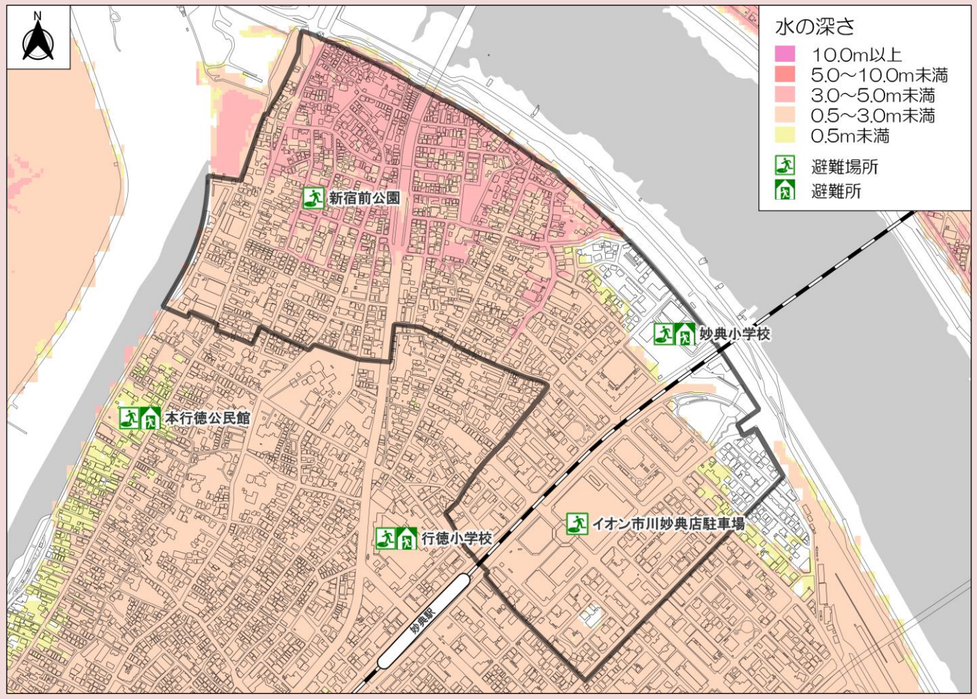
避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

水の深さ
- 水の深さが5.0m以上
- 水の深さが3.0～5.0m未満
- 水の深さが0.5～3.0m未満
- 水の深さが0.5m未満



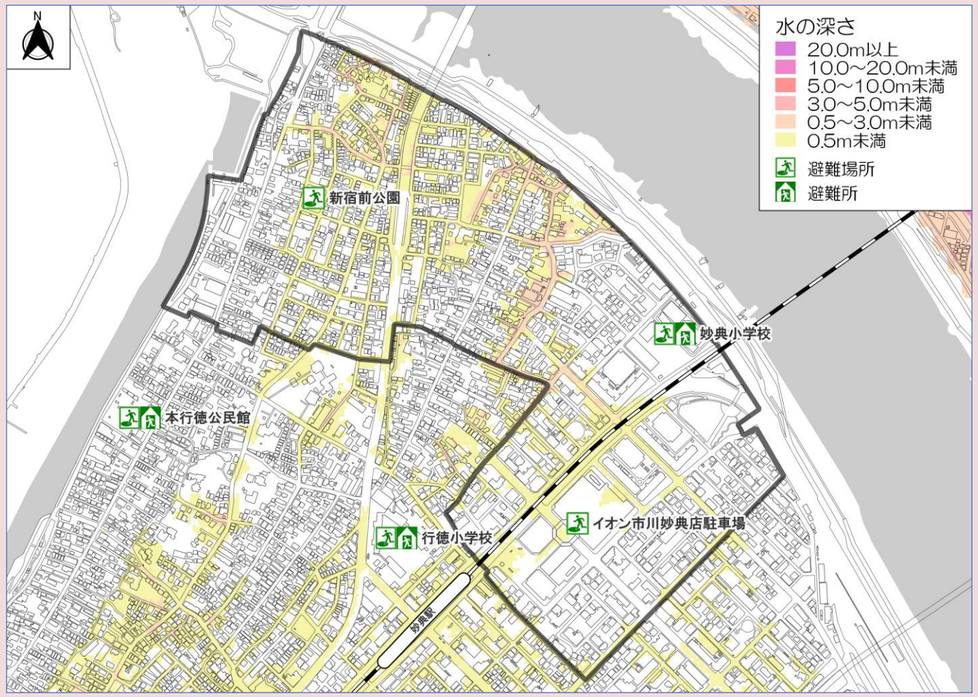
※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

⑧洪水（江戸川）



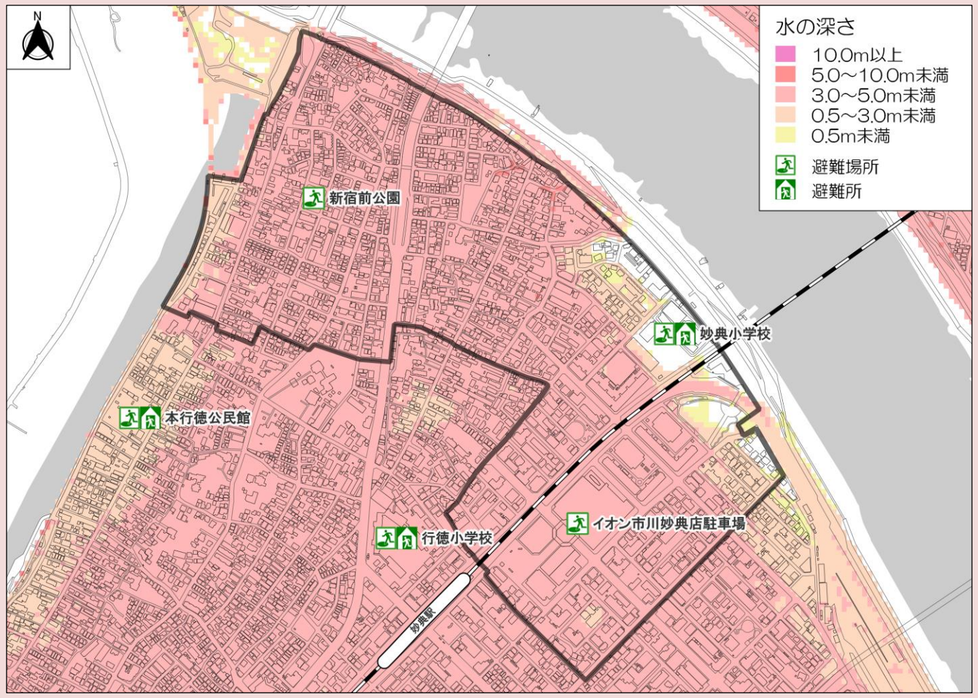
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県

◆メモ